

International Confederation of Midwives

34th Triennial Congress 参加報告書

～ 世界の助産師の力 ～

(2026 年 6 月 13 日～6 月 18 日 ポルトガル、リスボン)

宮内 愛

聖路加国際大学 ウィメンズヘルス・助産学助教
2025 年度奨学生

2026 年 6 月 13 日～18 日に、ポルトガルのリスボンで開かれた国際助産師連盟 (International Confederation of Midwives : ICM) 第 34 回国際会議に参加した。ICM は、全世界 120 か国以上の国と地域の助産師協会が加盟し、女性と新生児が質の高い助産ケアを受けられる環境づくりや助産師の専門性・教育水準の向上を推進している。3 年に一度開催されている本学会は世界最大規模の助産師国際会議である。今回は博士課程の研究の一部についてポスター発表を行う機会を得た。

「More than one million midwives (100 万人以上の助産師を)」をスローガンに掲げた本学会は、開会前日には、世界各国から集まった助産師とともに、リスボン・ベレン地区の海沿いを歩くイベントが開催された。オープニングセレモニーでは、各国の助産師が自国の国旗を掲げて入場し、「助産師のオリンピック」のような盛り上がりで、国際会議ならではの一体感を感じた。特にアフリカ諸国の助産師たちは、伝統的なキティングで仕立てた鮮やかなワンピースを身にまとい、非常にエネルギッシュであった。

学会では、いくつもの会場が用意され、基調講演以外にも、口頭発表、ポスター発表、ワークショップ、企業のセミナーが開催され、世界各国の現状や実践について幅広く知ることができた。特に立ち見が出るほど盛況であったのは、世界的な帝王切開の上昇や、安全で満足度の高

い出産ケアに関する講演であった。地域や文化は異なるものの、助産師が直面している課題には共通点も多く、各国の取り組みを知ること、日本の周産期医療や子育て支援・思春期教育・ジェンダー教育・さらには社会的格差や貧困などについても改めて考える貴重な機会となった。



《ICM のオープニングセレモニー》

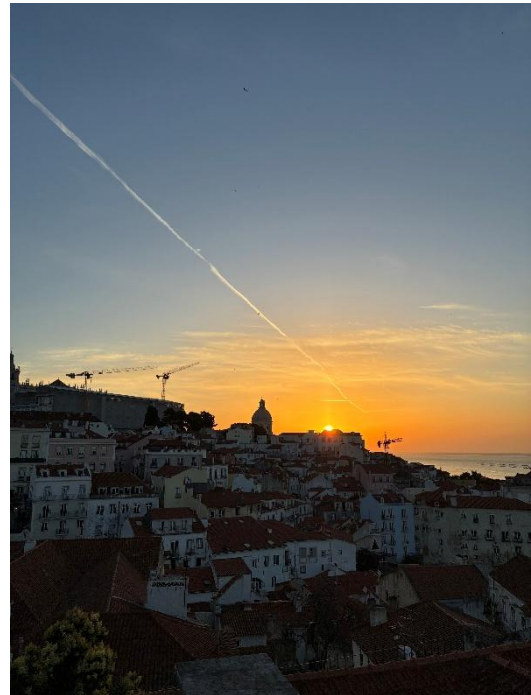
私のポスター発表では、帝王切開後の乳汁生成促進に関する研究について紹介した。偶然、隣のポスターが 16 年ぶりに再会した元同僚の発表であり、思いがけない再会にも恵まれた。私の発表に関心をもってくれたドイツの助産師たちとそれぞれの国の臨床現場について意見交換を行うことができた。また、日本では無痛分娩に公的医療保険が適用されていないことが紹介された際には、欧米の助産師から驚きの反応があり、制度の違いや出産に対する認識の違いを改めて実感した。日本からの発表者は決

して多くなかったものの、顔見知りの助産師とも再会し、ネットワークの広がりを実感する機会となった。



《ポスター発表》

う努めてまいります。世界の助産師と再会を励みとして、今後も研究と教育に一層精進してまいります。



《旧市街の日の出：アルファマにて》

会期中は夏至に近い時期であったため、21 時過ぎまでリスボンの夜は明るかった。日中の気温は 30℃まで上がるものの湿度が低く、朝夕は 16 度前後と過ごしやすい気候であった。街には観光客が多く、夜遅くまで賑わっていた。早朝には旧市街を散策し、人も少なく、日差しが柔らかい落ち着いたリスボンの街並みを楽しむことができた。学会の合間には世界遺産の街シントラやポルトを訪れ、美しいペーナ宮殿や、ポートワインのワイナリー、ドロウ川の美しい景色を堪能した。

最後になりましたが、このたび貴重な国際学会への参加をご支援くださいました財団の皆様へ心より御礼申し上げます。次回の ICM 国際会議は、UAE・アブダビで開催される予定です。今回得られた知見や国際的なネットワークを今後の研究・教育活動に生かし、その成果を社会へ還元することで、ご支援にお応えできるよ